



りんご栽培三十数年。冬の枝の雪落としの大変さも、お客さんからの「おいしかったよ」の声に報われる。(田茂木野 川村富子さん)

# Un Jour

## アンジュール

「アンジュール」は仏語で「ある日」の意味です

### 特集

## 今どき農業な女たち

～アグリカルチャーのすすめ～

最近のメディアで、いきいきと農業に取り組む女性たちにしばしば出会います。道の駅などに立ち寄れば、女性たち手作りの商品や農産物、そして積極的に売っているのも女性たち。

「女性たちの元気によって、町が変わり始めている」(平成8年「名川チェリーセンター101人会」の活動紹介で…アンジュール創刊号)、「農業は、時間に縛られない仕事だからいい」(平成11年家族経営協定を結んだ工藤さん…アンジュール13号)。今までアンジュールがお届けした情報にも、ポジティブな農業女性が登場していました。

女性たちの参画が農業を変え、社会を変えているのではないのでしょうか。仕事と生活の調和(ワークライフバランス)という側面からも注目の職業でしょう。そこで、特集は女性と農業を取り上げました。家庭菜園の楽しみもご紹介しています。

・アップルヒルの朝摘み野菜や漬物・花・ジャムを買うのが楽しみ！生産者も売り場の人も女性が中心で、元気をたくさん買える気がして、美味しく食べています。  
(50代・女性・週末買出し好き)

・ロコミで聞こえてきた主婦が始めた地産地消のレストラン  
「女性が元気になると、青森が元気になる！」はず…。  
(40代・女性・けっぱるかーさん応援団)

・青森市って、食料自給率が63%  
なんだって！  
それって、スゴくない？！  
(10代・女性・自然大好き娘)

・自給自足とまではいかないけれど、子どもに手がからなくなったら妻と二人で、畑をやっています。会社に行く前に、車で10分。今は野菜の収穫に忙しい毎日です。  
(40代・男性・やっと妻に遊んでもらえる夫)

## アンジュール的 私の言の葉

・子育てするなら、田舎が一番！ダンナは会社勤めだけと、両親が田んぼや畑をやっています。農家の嫁はできないけれど、子育てサークル仲間と「稲刈り大会」をやったり、お米を販売したりもしています。ジイちゃんの仕事はお米は安心して美味しいよ！  
(40代・女性・いつかコミュニティカフェをやりたい)

・青森市が男女共同参画都市を宣言してから12年が経つと聞きました。  
最近は何となくワークライフバランスという言葉がよく聞きます。男女共同参画と何が違うのかしら？まだまだわからないことだらけ。今年は何月間事業に足を運んでみようかしら。  
答えが見つかるかも…。(30代・女性・まだまだ勉強するぞ)

・働く女性の家の玄関にある色紙作品はスツップの手作りなんですって。手技様々に季節ごとに変わる作品が楽しみです。(60代・女性・生涯学習派)

### 「男女共同参画都市」青森宣言

私は私を大切に思うのと同じ重さで  
あなたを大切に思う

性別を超え  
世代を超え  
時代を超え

人と協調し 人を信頼できる  
誇り高い人間でありたい

すべての人の自立と平等をめざして  
青森はここに「男女共同参画都市」を  
宣言します。

平成8年10月22日 青森市

今、農業は就業率の低下、輸入農作物の台頭そして原油高騰によるコスト増など、グローバルな問題をも抱え、課題は山積みです。しかし、その現状のなかで、農業を職業として選択する女性や積極的に農業経営に参画する女性、既存の農業に付加価値をつけ収益を上げる女性、そして市民農園などで土に親しむ女性が増えてきました。今回は、そんな「今どき農業な女たち」を追いかけます。



「職業として、選んでもらえる農業を」。こう考えた範子さんは、平成10年7月、産直の店をオープンさせました。子育てに一段落した時期でした。現在、夫婦と息子の3人で農業に従事していますが、範子さんには産直の店の担当という仕事に加わり、消費者に胸を張って勧めることのできる農産物の販売、減農薬特別栽培米の生産販売、農薬不使用栽培のお米や野菜の委託販売、日々の仕事には、このようなくつものこだわりがあります。それは、自宅裏の畑で栽培した農薬不使用の野菜を利用して作るお弁当という形でも現れます。季節限定の彼岸団子、お供え餅、のし餅なども手作りして、販売しています。「今どきのスローフードな感じ」

# 今どき農業な女たち

## 「アグリカルチャー」のすすめ

ラディッシュ、トマト、ナス、ピーマン、ズッキーニ、枝豆、トウモロコシ、ジャガイモなど。春から秋にかけて我が家の食卓にのぼる野菜の数は、無農薬、有機肥料で安全・安心、しかもおいしい！実は市民農園で採れたものばかり。我が家の野菜づくりの歴史は、新婚時代のアパート暮らしから始まる。アパートの庭が広がったので、大家さんの許可を得て野菜を初めて植えてみる。秋には両家の親をゲストに収穫祭をやるほど実ったのだ。それから、ハマリましたね。土を耕し、苗や種を植え、芽が出た、葉が出てきたといっちは喜び、夏の暑さの中で草取りもなんのその、手のかけた分だけ収穫の喜びもひとしおというもの。自分で育てると、親指の先ほどのジャガイモも捨てられなくな

### ちょっと農業の始め

### 汗した分だけ口福が訪れる



市民農園にはいろいろな畑があり、これを見て歩くのも楽しみ。定番はいろいろな野菜がぎっしり植えられている畑だが、スイカだけ、あるいはジャガイモだけ、はたまたお花とハーブだけという個性的な畑もある。栽培方法も、雑草も取らない自然農法や、液肥を使う農法があったり、自然に任せ、堆肥を自然に出す方法も通じて、人との付き合いのあざまじさを実感できるものも、市民農園ならではの。週末に畑に通って野菜を収穫する「ちよこつと農業」、青森市の食料自給率アップに貢献しているのかも。

アグリカルチャーとは「農業」。アグリはラテン語で畑、カルチャーは耕す。文化（カルチャー）はこの耕すという言葉から派生したもの。青森市は豊かな自然環境と都市近郊型農業を有し、食料自給率が全国は40%に対して青森市は63%と比較的高い。農産物は、米、りんごが有名。カシスは30年前から栽培が始まり、農家女性を中心に「あおもりカシスの会」が設立され、生産・加工等努力を重ねた結果、現在、日本一の生産地となっています。

冬期間は冬は大好きな農作業がないので、漬物などの加工品づくり。これもお店の人気商品。また、情報収集ができる大切な時間。安全でおいしいお弁当づくりのため県外へ調査に行くこともあります。年度末に向けて税金の申告準備も。

**農業起業家 農業好子さんのある一日**  
 家族：好子・夫・息子・義父  
 田んぼ・畑所有  
 お弁当屋経営  
 家族経営協定締結  
**メリハリがあるから農業が好き！**

**朝5時起床**  
 自宅の畑を見回り  
 作物の出来具合を確認。きょうは何を収穫しようかな。このひとときにお弁当のアイデアがよく浮かんでくる。自宅に戻り、家族の朝食の用意。米と野菜は自慢の自家製。

**朝6時半**  
 お店の厨房入り  
 商品のお弁当作り開始。1日10キロのお米を炊き、スタッフと100食分調理。生産者が採れたての野菜を運んでくる。その場で値段をつけたり、商品棚に並べたり大忙し。

**朝9時**  
 開店  
 お弁当の販売は通年。開店と同時に電話注文の受付開始。スタッフは直販店へ商品搬入後、予約分を市内配達。店が一段落した合間に会員制で販売している玄米の出荷状況、顧客名簿をチェック。

**午後3時**  
 畑の見回り。帳簿の確認  
 再度、畑の見回り。農薬不使用の野菜栽培なので、人の目と手は倍必要。終了後、つかの間の休息。お弁当の新しいメニューを研究。本日の売り上げを確認。

**午後7時**  
 夕食  
 家族揃っての夕食。きょうはお弁当の新メニューを家族みんなで試食。野菜本来の旨みを活かした減塩料理は好評。  
**午後10時 就寝**

**冬期間**  
 冬は大好きな農作業がないので、漬物などの加工品づくり。これもお店の人気商品。また、情報収集ができる大切な時間。安全でおいしいお弁当づくりのため県外へ調査に行くこともあります。年度末に向けて税金の申告準備も。

女性農業家 必見 よりエンパワーメントをするために

**家族経営協定締結 青森市は19戸**

家族経営協定とは、農業経営にたずさわる家族みんなが意欲とやり甲斐を持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指すものです。経営方針や役割分担、労働時間、報酬など、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき、取り決めます。

**家族経営協定の締結でこんなメリットも**

- 認定農業者制度 実質的に協定等を締結していることを要件に夫婦等の認定農業者の共同申請ができます。
- 農業者年金 協定等を締結し、一定の要件を満たすと経営に参画している配偶者、後継者の保険料に一定割合の国庫助成が行われます。その他にも、農業改良資金等の貸付、農地のあっせん、果実需給調整対策、夫婦連名表彰があります。

**女性認定農業者 青森市は8人**

認定農業者とは、農業で頑張っていこうとする人が立てた計画（農業経営改善計画）を市町村が基本構想に照らし認定するものです。認定農業者になると、その計画達成に向けて様々な支援措置を受けることができます。

**認定農業者でこんなメリットも**

- 低利資金の融資
- 税制上の特例
- 機械・施設等の整備に対する助成
- 農業者年金保険料の助成
- 経営規模の拡大支援

**女性農業起業家が倍増**

女性農業起業家の条件は、経営方針の決定や事業実施において、女性が主体となった経済活動を行っていること。また地域の農産物等を使い、女性の収入の獲得につながっていることなどが挙げられます。

地域での農産物等を使った加工品やレストラン、直販店の経営で収入を得る女性たちが増加しています。

農林水産省の調査によると平成9年の4040件から18年の9344件と2倍強の伸びを示しています。最近では古民家や自宅を改装したレストランや直販店の経営が増加しています。また、農業起業家の強い味方はパソコン。全体の約25%がI Tを活用して、商品の紹介、販売や経営管理等を行い、17%の女性たちが取り入れたいと考えています。

**アグリカルチャーへの道お助けサイト**

農業を職業としたい、自給自足の生活を目指したい、手軽な市民農園を利用したいなどアグリカルチャーへの道を歩みだそうとするあなたへ。

- 農林水産省「男女共同参画のページ」農山漁村の女性のチャレンジ支援を応援する総合的サイトがあります。  
<http://www.maff.go.jp/danjo/index.html>
- “A”Life Park～青森県で農業をはじめませんか～青森県農林水産部構造政策課 新規就農者向けに、就農までのステップなどが分かりやすく解説されています。  
<http://www.applenet.jp/~kouzou/a-life/shinkiukeire.html>
- 青森市農林業情報 青森市の農作物をはじめ農業資金、施策、データなどが掲載されています。  
<http://www.city.aomori.aomori.jp/nogyo/sajb01.html>
- 市民農園の問合せ 市民農園の場所、空き状況の問合せは 青森市農林水産部農業政策課 Tel 0172-62-1144

注：「VIC・ウーマン」は農林水産省の普及女性課における施策のもとに展開されている青森県が認定する農村漁村の女性リーダーの称号。農業経営から生活、社会に関することまで情報交換し、地域の活性化に向け活動している。

# ニュースの目

## 女性の参画加速プログラムについて ～「2020年30%」を目指して～

男女共同参画推進本部では本年4月、女性の参画加速に向けた取組みを戦略的に行っていくため、「女性の参画プログラム」を策定しました。

国は、男女共同参画基本計画(第2次)において、「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導者的地位に女性が占める割合が少なくとも30%程度になるよう期待」という目標を決定しました。

しかし、現在目標を達成している分野は少なく、また割合自体は高くなってきていても、仕事と生活の調和の実現が難しく、女性が力を発揮しにくい分野も数多くあります。

こうした状況を打開するために、プログラムでは、1. 仕事と生活の調和の実現、2. 女性の能力開発・能力発揮に対する支援の充実、3. 意識改革の3つを施策の基本的な方向としました。具体的な取組み内容としては、各界トップ層等への戦略的な働きかけをはじめとする女性の参画促進のための基盤整備。活躍が期待されながら女性の参画が進んでいない医師、研究者、公務員について重点的に取組みを行い、その成果を他分野に波及させるとしています。

### ●女性の悩み相談 カダール相談室●

パートナーからの暴力で悩んでいる、自分自身の生き方や家庭のことで相談したいなど、あなたの抱えている悩みを相談員がお聞きします。

毎週月・木(祝日・年末年始・休館日を除く)

○電話相談 ☎017-776-8850

○面接相談 10:00～12:00  
13:00～16:00

\* 面接相談は予約が必要です。

平日9:00～18:00 ☎017-776-8858

### <発行>

青森市市民文化市民協働推進課

男女共同参画室

〒030-8555 青森市中央1-22-5

☎ 017(734)2296 FAX 017(734)5232

### <編集スタッフ>

企画集団ブティジュール・白井壽美枝・

藤川あきつ・小山内世喜子・阿部美智子・

沼田久美・松山佳子

転載希望の方はご連絡ください。

## 今年も10月は！ 青森市男女共同参画都市宣言記念月間



12年前、会場には感動の涙を浮かべる女性たちもいた。

平成8年10月22日

青森市は全国8番目の宣言都市になりました。



10月は青森市男女共同参画都市宣言記念月間事業が多彩に繰り広げられます。この記念月間は、誰にもやさしい生きやすい社会『男女共同参画社会』の実現を目指し毎年開催されています。宣言から12年目を迎えた今年も青森市男女共同参画プラザを中心に行われます。

参加型の分科会を中心とした今年の月間事業。主な事業、問合せ先はこちら

10/9(木) 13:30～15:30 語り継ぐ～売春防止法、男女別定年制、そして今～

10/10(金) 10:30～12:00 あれから12年 再び問う りんごの皮は誰がむくの？

10/11(土) 10:30～12:00 仕事生活?家庭生活?～ワークライフバランスの現実

10/10(金)～12(日) 10:00～17:00 \*12日は16時まで

じゃらん・じゃらん2008鈴木正治作品展ー語り継ぐ、今。ー

\*11日(土)14:00～14:30トーク「鈴木さんの思い出」ゲスト斉藤葵和子さん

10/25(土) 10:30～12:00 フロアトーク「市民活動としての男女共同参画」

問合せ：青森市男女共同参画プラザ TEL 017-776-8800

### 宣言モノキュメントと鈴木正治さん

彫刻家鈴木正治さんが4月に逝去されました。働く女性の家のあるモノキュメントと柱に埋め込まれたレリーフは正治さんの作。モノキュメントは、青森市が男女共同参画都市を宣言したのを記念しようと市民が実行委員会を立ち上げ、市民に寄付を募って完成となったものです。このいきさつは当時のアンジュールに掲載されています。レリーフは、その後、「呼応するものをここに」と、正治さんが作成してくださったと伺っています。人は平等であること、閉塞されず風の吹き抜ける社会であってほしいこと、そして平和、何度かお会いしたとき、語ってくださいました。飄々となさって、でもとても熱かったです。

### 男女共同参画社会はこんな社会を目指しています

平成20年度青森市民意識調査の自由記述をもとに表現してみました。

「男尊女卑の考え方がない社会」「男性と対等に女性が活躍できる社会」「夫が家事育児にかかわる共働き家庭」「育児休暇を男女ともに取りやすい職場」

## 青森市男女共同参画プラザ「カダール」 青森市働く女性の家「アコール」

「カダール」は津軽弁で仲間になるという意味の「カダール」と、共に語り合うという2つの意味を表現。市民のみなさんと男女共同参画社会づくりをすすめていくための拠点です。

「アコール」はフランス語で「調和」「和音」の意味。社会参画に取り組むすべての女性を応援しお手伝いする施設です。女性はもちろん、男性もご利用できます。

[開館時間]

9:00～22:00

[休館日]

毎月第2水曜日

[電話]

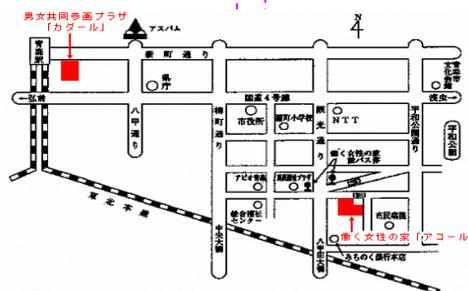
017(776)8800

[FAX]

017(776)8828

〒030-0801

青森市新町1-3-7 アウガ5F



[開館時間]

9:00～22:00

[休館日]

毎月第2日曜日

[電話&FAX]

017(723)1700

〒030-0821

青森市勝田1-1-2